

「ペテロとコルネリオの出会い」

使徒 10 : 23b~33

1. はじめに

(1) 2つの幻が、コルネリオとペテロの出会いを作り出す。

- ①神がこの出会いを計画し、実現へと導かれた。
- ②この出会いにより、霊的化学反应が起こる。
- ③コルネリオが使者をヨッパに遣わすよりも、ペテロがカイザリヤを訪問する方が、はるかに大変で、画期的なことであった。

(2) 使 10 : 23b~48 までがひとつの「まとまり」である。

- ①ペテロとコルネリオの出会い (23b~33 節)
- ②ペテロのメッセージ (34~43 節)
- ③コルネリオの救い (44~48 節)

(3) 今回は、①ペテロとコルネリオの出会い (23b~33 節) だけを取り上げる。

- ①ペテロの異邦人向けのメッセージを簡単に済ませることはできない。
- ②さらに、異邦人が聖霊を受ける場面も、重要である。

2. アウトライン

- (1) ペテロのカイザリヤ訪問 (23b~26 節)
- (2) ペテロの質問 (27~29 節)
- (3) コルネリオの回答 (30~33 節)

結論

門から家に入るための4つのステップ

ペテロとコルネリオの出会いについて学ぶ。

I. ペテロのカイザリヤ訪問 (23b~26 節)

1. 23 節 b

Act 10:23b 明くる日、ペテロは、立って彼らと一っしょに出かけた。ヨッパの兄弟たちも数人同行した。

(1) 翌日、ペテロとコルネリオの使者たちは、カイザリヤに向けて旅立った。

- ①昼食を終えた段階では、すでに時刻が遅くなっていた。

②そこで一行は、翌日、カイザリヤに向け出発した。

(2) 「ヨッパの兄弟たちも数人同行した」

①同行したヨッパの兄弟たちの数は、使 11 : 12 によれば6人である。

Act 11:12 **そして御霊は私に、ためらわずにその人たちといっしょに行くように、とられました。そこで、この六人の兄弟たちも私に同行して、私たちはその人の家に入って行きました。**

②使徒の働きの中では、2人で行動する場面が多く出て来る。

③ここでは、その3倍である。

④ペテロを加えると、証人は7人となる（完全数）。

⑤異邦人の家を訪問するのは、批判の対象となる行為であった。

⑥ペテロは、自分の行動を弁護してくれる証人を必要とした。

2. 24 節

Act 10:24 **その翌日、彼らはカイザリヤに着いた。コルネリオは、親族や親しい友人たちを呼び集め、彼らを待っていた。**

(1) 「その翌日、彼らはカイザリヤに着いた」

①1日目：コルネリオが午後3時に御告げを受け、使者たちを派遣した。

②2日目：使者たちは、正午ごろにヨッパに到着した。

③3日目：ペテロと使者たちは、ヨッパを発った。途中で一泊した。

④4日目：ペテロと使者たちは、午後3時前にカイザリヤに到着した。

(2) コルネリオは、ペテロが来てくれるという確信を持っていた。

①親族（遠い親戚）や親しい友人たちを呼び集め、ペテロの到着を待っていた。

②神に対する期待こそ、信仰の本質である。

3. 25～26 節

Act 10:25 **ペテロが着くと、コルネリオは出迎えて、彼の足もとにひれ伏して拝んだ。**

Act 10:26 **するとペテロは彼を起こして、「お立ちなさい。私もひとりの人間です」と言った。**

(1) コルネリオは、ペテロの足もとにひれ伏して拝んだ。

①神を恐れる異邦人であるコルネリオが、ペテロを礼拝したとは考えられない。

②これは、典型的なローマ人の儀礼的な反応である。

③しかしペテロは、これを礼拝と受け取った。

④「お立ちなさい。私もひとりの人間です」

(2) そう言いながら、ペテロは玄関(門)を通過し、家に入っていく。

- ① ついにペテロは、最大のバウンダリーを越えた。
- ② この瞬間、教会の歴史は動いた。

## II. ペテロの質問 (27～29 節)

### 1. 27～28 節

Act 10:27 それから、コルネリオとことばをかわしながら家に入り、多くの人が集まっているのを見て、

Act 10:28 彼らにこう言った。「ご承知のとおり、ユダヤ人が外国人の仲間に入ったり、訪問したりするのは、律法にかなわないことです。ところが、神は私に、どんな人のことでも、きよくないとか、汚れているとか言ってはならないことを示してくださいました。

(1) 家の中には、多くの人が集まっていた。

- ① そこには、期待感が満ちていた。

(2) ペテロの言葉

- ① ユダヤ人が異邦人とこのように交流することは、律法違反である。

\* このことは、異邦人もよく知っていた。

- ② しかし神は、異邦人が汚れていると言ってはならないと教えてくださった。

\* この時点で、ペテロは自分が見た幻の意味をよく理解できている。

(3) ユダヤ人と異邦人の交流は、口伝律法によって規定されていた。

- ① これは、優越感から出てくる分離ではない。
- ② 儀式的清さを追求した結果、複雑な口伝律法が形成されたのである。
- ③ ミシュナの「トラクテイト・アボダア・ザラ」は、このテーマを扱っている。
- ④ そういう口伝律法が形成された理由

\* 歴史上、異邦人との接触がイスラエルに偶像礼拝をもたらした。

\* 王国時代が、その好例である。

\* バビロン捕囚の直前の時代にも同じことが起こった。

- ⑤ ヨハ 18 : 28

Joh 18:28 さて、彼らはイエスを、カヤパのところから総督官邸に連れて行った。時は明け方であった。彼らは、過越の食事が食べられなくなることはないように、汚れを受けまいとして、官邸に入らなかった。

## 2. 29節

Act 10:29 **それで、お迎えを受けたとき、ためらわずに来たのです。そこで、お尋ねしますが、あなたがたは、いったいどういうわけで私をお招きになったのですか。」**

(1) ペテロは、聖霊の導きに従順に従った。

- ①「それで、お迎えを受けたとき、ためらわずに来たのです」
- ②この行為は、律法に熱心なユダヤ人たちには、到底受容できないものである。

(2) ペテロは、コルネリオが自分を招いた理由を尋ねた。

- ①使者たちから概略は聞いていたが、本人から直接聞く必要があった。
- ②伝道は、聖霊に導かれ、神のタイミングで実行する必要がある。

## Ⅲ. コルネリオの回答 (30～33節)

### 1. 30～31節

Act 10:30 **するとコルネリオがこう言った。「四日前のこの時刻に、私在家で午後三時の祈りをしていますと、どうでしょう、輝いた衣を着た人が、私の前に立って、**

Act 10:31 **こう言いました。『コルネリオ。あなたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前に覚えられている。**

Act 10:32 **それで、ヨッパに人をやってシモンを招きなさい。彼の名はペテロとも呼ばれている。この人は海べにある、皮なめしのシモンの家に泊まっている。』**

(1) コルネリオは、自分が体験したことを証言した。

- ①4日前のこの時刻（午後3時）
- ②天使（輝いた衣を着た人）が自分の前に立った。
- ③天使は、こう語った。

\*あなたの祈りは聞き入れられている。

\*あなたの施しは神の前に覚えられている。

\*それゆえ、ヨッパに人をやってシモンを招きなさい。

\*彼の名は、ペテロとも呼ばれている。

\*彼は、海べにある皮なめしシモンの家に泊まっている。

### 2. 33節

Act 10:33 **それで、私はすぐあなたのところへ人を送ったのですが、よくおいでくださいました。いま私たちは、主があなたにお命じになったすべてのことを伺おうとして、みな神の御前に出ています。」**

(1) あなたのところに人を送ったのは、天使がそう命じたからである。

- ①それ以外のことは、分からない。
- (2) 宗教的、文化的バウンダリーを越えて、よく来てくださった。
  - ①コルネリオは、ユダヤ人と異邦人の間にあった壁をよく知っていた。
- (3) コルネリオは、ペテロが神からのメッセージを持って来たことも知っていた。
  - ①「主があなたにお命じになったすべてのこと」
  - ②ギリシア語の動詞は、「プロスタツソウ」である。
    - \*軍隊用語で、命令である。
  - ③神がペテロに命じたことを、自分たちは聞く用意ができています。
  - ④彼らは、神によって用意された最高の聴衆であった。

#### 結論：門から家に入るための4つのステップ

##### (決断するための4つのステップ)

#### 1. 御心を知る。

- (1) ペテロは、幻によって御心を知った。
- (2) 私たちの場合
  - ①聖霊を通して
  - ②みことばを通して
- (3) 神は、神を求める者にご自身を現わしてくださる。

#### 2. 動機を吟味する。

- (1) 自分の願いか、神の御心か。
- (2) 聖句

Mat 6:10 御国が来ますように。／みこころが天で行われるように地でも行われますように。

Luk 22:42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりになしてください。」

#### 3. 意志の力を働かせる。

- (1) 決断とは、意志の力によって行動を起すことである。
- (2) 知、情、意は、相互に関連している。
  - ①知の要求は、御心を知ることによって満たされる。
  - ②情の要求は、神の御心を行いたいという願いによって満たされる。
  - ③意志は、知性が感情によって支えられたときに働き始める。

4. 神の恵みより頼む。

(1) 最も難しいのは、困難な道を選ぶことである。

(2) 神の恵みは、日々私たちを支える力となる。

①神は、私たちの過去、現在、未来をご存じである。

(3) 恵みによる決断の表明

Jos 24:15 もしも【主】に仕えることがあなたがたの気に入らないなら、川の向こうにいたあなたがたの先祖たちが仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のエモリ人の神々でも、あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、きょう選ぶがよい。私と私の家とは、【主】に仕える。」